長期戦略：テーマ 「 Evidence-based Management の推進」

提出日 2019 年 8 月 8 日 担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 （統轄部署）	小野総合企画部長 （総合企画部）	実施計画の 担当部署	総合企画部

1．実施計画

実施計画（タイトル）		取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有／無	帳票
8-(2)-①	KGI・KPI の設定・活用	（2019）年度	（2021）年度	必要⇒【必須型】（全学部または全研究科での取組みが必須）	不要

内容
非営利組織である学校のマネジメントにおける最大の課題の一つは、最上位のアウトカム（成果）を定め、その達成度を測る KGI や KPI を設定することにある。学院では KPI ダッシュボード等のツールを活用して「Kwansei Grand Challenge 2039」（超長期ビジョン・長期戦略）および中期総合経営計画（実施計画・基盤計画）の進捗や達成度を含めた成果を検証する仕組みを構築する。そのために、教学・経営両面のデータ活用を司るのに最適な組織体制を確立する。また、各学校および大学の各学部も、全学の KPI と連動しながら個別の状況に合わせて独自に KPI を設定し、毎年その数値や取組状況を評価し、改善・促進の取り組みに活用する。

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	KPI を設定・活用する学部・研究科の数	KPI を設定・活用する学部・研究科の数
指標2	KGI・KPI を評価・活用する会議体の数	KGI・KPI を評価・活用する会議体の数
指標3		

目標1＜指標1＞ KPIを設定・活用する学部・研究科の数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	11学部・14研究科	11学部・14研究科	11学部・14研究科	11学部・14研究科
実績				

目標2＜指標2＞ KGI・KPIを評価・活用する会議体の数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	理事会、総合企画会議、 内部質保証部会(仮称)	理事会、総合企画会議、 内部質保証部会(仮称)	理事会、総合企画会議、 内部質保証部会(仮称)	理事会、総合企画会議、 内部質保証部会(仮称)
実績				

目標3＜指標3＞

	(　　　)年度	(　　　)年度	(　　　)年度	4年目以降
目標				
実績				

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
KGI・KPI の設定・活用	策定段階	KPI 設定・評価 総合的な IR 組織体制の検討	評価・改善	評価・改善	評価・改善	評価・改善
	2020 年 3 月末段階	内部質保証部会を中心に検討	同左	同左		
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	－
	策定段階	評価・改善	評価・改善	評価・改善	評価・改善	
	2020 年 3 月末段階					

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階					
	2020 年 3 月末段階					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	－
	策定段階					
	2020 年 3 月末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】				
非公開				
経費　単位:万円	2019年度　承認	2020年度　承認	(2021)年度	4年目以降
非公開				
人員・人件費　単位:万円	2019年度　承認	2020年度　承認	(2021)年度	4年目以降
非公開				

４．進捗状況・得られた成果

2019 年度	
（　　）年度	
（　　）年度	

５．今後の課題及び方向性

（2019）年度	2019 年度から学部・研究科も、全学の KPI と連動しながら個別の状況に合わせて独自に KPI を設定し、毎年その数値や取組状況を評価し、改善・促進する取り組みを「中期計画総括シート」を用いて実施していく。全学の KPI や KGI は上部会議体に報告の上、進捗課題等を共有していく。一方、学部・研究科の PDCA サイクルをどう具体的な改善（教育課程の再編成、プログラム拡充や入試制度の変更など）につなげていけるかが課題。
（2020）年度	
（2021）年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	―
2019 年度	―
(　　)年度	